

畜産研究所 飼養管理部 ～研究領域：乳用牛、養鶏～

◆ 主な研究課題・事業 ◆

課題 1 乳用種未経産牛 OPU 胚の効率的生産技術の開発

酪農家の所得向上と改良の底上げを図るべく、乳用種未経産牛のOPU技術で回収された未成熟卵子の効率的な体外胚培養手法を確立し、さらなる高品質胚の製造と受胎率向上を図ります。また、卵巣機能の指標とされる抗ミュラー管ホルモン(AMH)とOPU成績等の関連性を明らかにします。



未経産牛からの胚生産

課題 2 受胎率の高い凍結受精卵の選抜手法の開発

より高い受胎率が得られるウシ体外受精卵の凍結時の選抜手法を開発するために、発生培養したAランク胚から、さらに詳細な形態的評価や初期卵割の過程から凍結受精卵としての品質判定手法を確立します。



ウシ体外受精卵の培養

課題 3 ICT 機器を利用した乳牛の暑熱ストレスモニタリング技術の確立

乳用牛は暑熱ストレスに弱く、夏場は繁殖能力や牛乳の生産能力が低下します。暑熱ストレスに対する耐性の程度は個体差があるため、発情等の個体モニタリングに用いられる ICT 機器のデータと暑熱ストレスの関連性を調査し、個体ごとの暑熱モニタリング技術を確立します。



ICT を活用したモニタリング

課題 4 酪農経営における国産飼料を 100%活用した生産技術の開発

酪農経営の安定化を図るため、子牛育成期から2産次まで同一の乳用牛を用い、国産穀類、粗飼料及び食品製造副産物等を活用した国産飼料100%を給与する生産技術を開発します。



採食状況のチェック

課題5 国産原料100%飼料による「プレミアムやまがた地鶏」の開発

飼料価格高騰対策および「やまがた地鶏」のブランド力向上を図るため、国産原料100%「やまがた地鶏」専用飼料を開発し、その製造、供給、給与体系の新たな構築を図ります。



採食状況のチェック

課題6 乳用牛改良増殖対策事業

乳用牛群の改良と酪農経営の体質強化を図るため、県内酪農家が飼養する乳用牛の繁殖成績や産乳成績等の様々な検定データをわかりやすく分析加工して情報提供し、酪農経営の指導、支援を行います。また、ゲノミック評価の高い受精卵産子から受精卵（プレミアム受精卵）を製造し、県内における優良後継牛の効率的増産を引き続き推進します。



牛群検定情報の加工と支援

課題7 やまがた地鶏の生産振興事業

赤笹シャモ雄と名古屋種雌の交雑種を父鶏に、横斑プリマスロック種を母鶏とした「やまがた地鶏」の種卵を県内生産者へ供給しています。ブランド確立に向け、生産者や関係機関と一体となって、やまがた地鶏の生産基盤の強化と販売促進強化に取り組んでいます。



「やまがた地鶏」左が雌、右が雄